

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】平成31年2月7日(2019.2.7)

【公開番号】特開2017-133629(P2017-133629A)

【公開日】平成29年8月3日(2017.8.3)

【年通号数】公開・登録公報2017-029

【出願番号】特願2016-15212(P2016-15212)

【国際特許分類】

F 15 B 11/00 (2006.01)

F 16 K 3/24 (2006.01)

【F I】

F 15 B 11/00 D

F 16 K 3/24 D

【手続補正書】

【提出日】平成30年12月20日(2018.12.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

次に、かかる構成の作動を説明する。

図1および図2は、パイロット弁1は、電磁石4A、4Bが非励磁で、パイロット弁体5をばね6A、6B力で中立位置Z1に保持し、パイロット供給流路P1を遮断し、第1パイロット負荷流路A1と第2パイロット負荷流路B1とをパイロット排出流路R1に連通している。主弁2は、両作用室9A、9BがタンクTに連通し、主弁体8をばね10A、10B力で中立位置Zに保持し、主供給流路P2を遮断し、第1主負荷流路Aと第2主負荷流路Bとを主排出流路Rに連通している。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0025】

また、パイロット弁1が中立位置Z1の状態で、他方の電磁石4Bを励磁すると、パイロット弁体5がばね6A力に抗して第2切換位置Y1に切換り、パイロット供給流路P1のパイロット圧力流体が第1パイロット負荷流路A1より、第1逆止め弁体16Aを自由流れで流れ、第1パイロット負荷流路A3、A2を経て第1作用室9Aに導入され、主弁体8は第1作用室9Aのパイロット流体の圧力に基づく作用力でばね10B力に抗して図1の右方向へ摺動する。このとき、第1作用室9Bのパイロット流体は第2パイロット負荷流路B2より、弁座19Bに着座して閉じている第2逆止め弁体16Bの絞り孔18Bを制御流れで流れ、第2パイロット負荷流路B3、B1を経てパイロット排出流路R1よりタンクTに導出される。このため、主弁体8は絞り孔18Bでの制御流れにより緩速で摺動して第1切換位置Xに切換る。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0027

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0027】

そして、パイロット弁1の電磁石4Bを非励磁にすると、パイロット弁1は中立位置Z1に復帰し、主弁2の第1作用室9AをタンクTに切換連通する。主弁体8はばね10Bにより図1の左方向へ復帰摺動し、第1作用室9Aのパイロット流体は、弁座19Aに着座して閉じている第1逆止め弁体16Aの絞り孔18Aを制御流れで流れ、タンクTに導出される。このため、主弁体8は絞り孔18Aでの制御流れにより緩速で摺動して中立位置Zに復帰する。